

婦人と子ども

大正五年十一月五日
第十六卷 第十一號

滿鮮幼兒教育視察談

(ワレイベル會總會講演大要筆記)

倉 橋 惣 三

本日は澤村文學士の「現代に於ける日本畫の潮流」と題する極めて趣味に富んだお話が御座います。今やこの美しい秋は美術の季節でありまして、今日斯ういふお話を伺ふことの出来るのは誠に感興の深いことで御座います。一體美術に對する一通りの理解と豊かなる趣味とを有することは、教育者にとつて極めて必要な一つの資格であります。が、分けても幼兒教育者に於て一層さうだと思ひます。

乃で本會に於ても斯ういふ方面のお話を伺ひ度

いといふことは豫ての希望であつたのでありまして、今日このお話を伺ふことの出来るのは私共の大なる幸と思ふのであります。で今日は澤村君にゆつくり十分のお話を願ひたいと思ふのであります。私がこの夏一寸滿洲、朝鮮へ參りまして、その教育の狀態を少しばかり見聞して來ましたので、そのお土産話を申し上げることゝなりました次第であります。但し滿洲も朝鮮も既に少しも珍しい土地ではありませんし、殊に私の旅行が一ヶ月ばかりの極く不十分の觀察でありますから何等纏

つたことも申上げられません。

◎滿洲觀察の基礎的氣分

扱て滿洲の諸般の問題を理解し又解釋するには何うしても缺くとの出來ない二つの基礎的氣分とも申すべきものが必要であります。その一つは滿洲に於ける我國の經營の第一の出發點としての、あの三十七八年の戰役でありまして、もう一つは東洋の現在及び將來に對する我國の位置といふことであります。大層大きい問題を持ち出すやうでありますが實際この二つの意識なしに滿洲を考へるといふことは到底出來ぬのであります。これは政治に於ても、産業に於ても言ふまでもない事であると思ひますが、教育に於ても實にそうであります。私は滿洲に參ります前、その準備として彼地に關する種々の著述を調べましたり、又彼地の智識を有する諸方面の人々に就て、その觀察や意見を聞いて廻りました時にこのことを感じたので

ありましたが、彼地に行つてから更に痛切に感じたのであります。殊に私は初めの一週間を旅順に滞在して居りまして、午前の講習會を終ると、午後には殆んど毎日、四方の戰跡を歴訪しましたので、滿洲を見るに極く大切な氣分をしつかりと與へられたのであります。講習の會場に充てられたのは旅順高等女學校の講堂でありましたが、それは花畑を前にして建てられた白壁造りの瀟洒たる一棟で、大層氣の利いた建物だと思つて居ました。これが日露戰爭の時、露西亞の海軍士官達が酒を飲んで歌ひ戯れて居る最中に我が艦隊の夜襲を受けて驚き騒いで劍を執つて船に歸つたといふ、あの有名なホールだつたのであります。私はこの話を聞いてから、その講堂に入る毎に、その當時の光景——それも酒に酔ひ痴れて狼狽して居る狂態ではなく、寧ろ遠くもない旅順港頭の我が夜襲隊の勇戦苦闘の光景が眼の前に浮んだのであります。斯ういふことも、あゝいふ土地でない経験しな

い感じであります。それから戦跡の現場に至つては、今尙壯絶の感に堪えないものばかりであります。彼の二〇三高地に案内して貰ひました時は薄曇りの蒸し暑い日で高地の麓に馬車を棄て、から上表を脱いで、襯衣一つになつて頂上まで登りましたが、登つてから當時の戦状を聞きますと實に嚴肅の氣に充たされまして急いで上衣を着、襟を正して、その説明を聞かざるを得なかつたのであります。その斜面、この岩と詳しい説明を聞けば寸土といへども我が忠勇の血に洗はれない所はないと言つていく有様で實に聞きしにまさる壯烈なる光景でありました。小銃弾や砲弾破片等は、今も尙澤山に拾ふことが出来ます。殊に私の驚いたのは數日前の豪雨に洗ひ出された幾つかの白骨が血の滲んだ軍服の破片や革片などと共に現れて居つたことあります、これは露西亞側の勇士のものであるといふことでありましたがいつれにしても實に悲壯極まるものであります。尙又赭土の

ところぐがじつとりとして、濡れたやうに光つて居るのを地下の膏の滲み出たものだと思つた時には何とも形容の出来ない感じがしたのであります。其他斯くの如き壯烈なる紀念は各砲壘の跡を訪ふ毎に胸を愕かしたのであります。勿論、彼の戦役の跡を残すものは旅順ばかりではありません、北、鐵嶺に至るまでの間に到處に存するのであります。が最もその壯烈の度の強いものを集めて直觀的に強い印象を與へるものは旅順が第一であります。但しもう一ヶ所、私に彼の戦役のことを深く考へさせましたのは奉天城外でありました。丁度、あの有名な北陵を見物に參つた時であります。しばらく高地に立つて、彼の奉天包圍戰の概要を聞きましたが、あの一望千里の曠野に於て我が野津軍、黒木軍、奥軍、乃木軍が酣戦した状態は想像した丈けでも實に雄大又壯大なるものであります。斯くて私は旅順に於て鋭く、奉天城外に於て大きく、日露戦争といふものを今更の如く印象さ

れたのでありますが、この最高の犠牲の代償の一つとして考へる時に我が、實に我が滿洲の教育の如何なる小さき部分をも忽にしがたきことを思はざるを得なかつたのであります。

第二の東洋の現在及び將來に對する我國の位置といふ問題に就ては、私共がこれを簡單に考へて了ふことは出來ないのでありますが、あの長い鐵道線路に沿うて、北へ北へと進んで行く間に、見るもの、聞くことに就けて、始終、嚴肅なる國家的の感じの伴はないものはないのであります。即ち一人の人といへども、一つの事業といへども、皆、國家を背景として、こゝまで前進して來て居るものといふ感じがするのであります、殊に長春に行きました時に、多くの人々が最前線、最前線と言つて居るのを聞いて、實に一種の壯んな感じがしたのであります。この今日の最前線は、彼の日露協約の結果に依つて、又一步を進めるわけでありませんが、東清鐵道に依つて、所謂第二松花江

の鐵橋を渡りながら、もう直きに我國の鐵道線路がこゝまで延びるのであると、一人で大いに國家的自負心を感じたやうなわけでありました。

斯ういふ感じを持つ者は單に我々旅人ばかりではありません、彼の地に於ける、苟くも文字ある人々はいづれも皆、この意氣組を以て、すべてのことに當つて居るのであります、こゝに内地のものよりは一種の緊張を感じるわけであると思ひます。殊に教育者諸君に於て、さういふ感じがするのであります。例へば今日のお話の主題でありますところの幼兒教育の方面に於ても、國といふ考、國家の大切なる子供といふ考はその當事者の念頭に始終深く刻まれて居るやうであります。斯ういふことは内地にあつても始終考へてゐなければならぬのであります、一度び本土を離れて、あゝいふ土地に行つてみますと、更めてこの感じが強く起るのであります。これだけの感じを多少なり味つただけでも、今回の渡滿は私にとつて

頗る有益であつたと思つて居ります。

◎滿洲の幼兒教育機關

扱て、本題に入つて、彼地の幼兒教育の狀態から先づ申上げてみようと思ひますが、元來滿洲の教育はその系統が關東都督府に屬するものと、南滿洲鐵道株式會社の經營に係るものと、外務省側の居留民團設立に成るものとの三種に分れて居りますが、その中で關東都督府は現在に於て、特に幼兒教育の施設を行つて居りません、居留民團の方では二三の幼稚園を有して居りますが、その主なるものは矢張滿鐵經營に屬するものであります。

殊に私は旅順講習の後、滿鐵會社の囑に依つてその沿線の教育狀態を視察いたしました關係からお話も自然その方に限ることになります。

一體滿鐵の教育經營は所謂政府の命令書に依り、即ち國家に代つて、その附屬地内の教育に任

じて居るのでありまして、その責任上大いに教育に努力して居ります。小學校教育は勿論、支那人教育、補習教育、女子教育、社會教育等にそれら力を盡して居りますが特に幼兒教育の爲めに初から、その計畫を樹て、力を致して居りますことは我々の特に愉快としたところであります。その幼兒教育の場所を特に幼兒運動場と呼んで居りますのが今日に於てその數は會社の直接經營に係るもの、沙河口、瓦房店、大石橋、遼陽、奉天、鐵嶺、開原、公主嶺、長春、本溪湖、安東、撫順の十三ヶ所及び地方有志者の經營に係るもので會社に於て補助して居るものが大連の寺兒溝、橋頭、鷄冠山及び今年新に出來た大連北公園の四ヶ所があります。その幼兒運動場といふ名を用ゐて居るのはその設立の趣意が氣候風土の關係上、幼兒の健康に特に留意するの必要を認めて、専ら運動遊戲の方法に依つて、學齡前の幼兒を保育するといふところから出來た名稱だといふことでありますが、

この目的に向つては現に十分の効果を収めて、各幼児運動場に於てその志望者が年々増加するのみならず、新しい土地に於て、その新設を希望するものが續々起るといふ状態であります。即ち滿洲に於ては、幼児教育の必要は毫も懷疑的批評などを蒙ることは無く、一般家庭側からも、小學校側からも、十分にその存在の意義を認められて居るのであります。

◎滿洲幼児教育の問題

私は勿論その全部を詳しく見る暇がなかつたのであります、大連に於て特に全運動場の主任保母及びその運動場の所屬する小學校長を召集して三日間の保育打合會が開かれましたので、廣く各運動場の状態に就て聞くことが出来、又滿鐵地方課主任岡本氏等の詳しい説明に依つて、大體の状態を凡ぼ察することが出来たのであります。先づ順序として、その打合會の状況から申し上げますと

第一日は皆で沙河口の幼児運動場の實地保育を參觀しまして、その後でそれを主題として質問し、批評し、又意見を述べるといふやうなことをしました。斯ういふ會に往々有りがちの沈黙會ではなくして、保母諸君から盛んに意見が出たのであります。又第三日には豫ねて參會者から提出せられて居る諸種の問題に就て十分意見を交換したのであります。これが亦活氣ある會合でありました、殊にその席上に於て私の提出した問題即ち「滿洲なるが故に保育上特に意を用ゐて居らるゝ點は何か」といふ問題に對して、一人残らずの方がそれ／＼の明瞭なる答を與へられたことは私の特に感じたことであり、又大いに利益を得たところでありました。實際、彼地の保母諸君はその仕事に熱心なる結果、それ／＼多くの問題を持つて居られます。それは「婦人と子ども」の十月號に掲載して置きました多數の問題に就ても知らるゝ所でありますが特にその熱心なる研究の態度は初めての

訪問者をして満足せしめたのであります。

乃で目下の滿洲幼兒教育の問題は何であるかと申しますと極めて多方面であつて、一々は申されませんがその主なるものを私の聞き方と私の言葉とに依つて概括的に申してみますならば左のやうな諸點であると思ひます。その第一は所謂幼兒運動場に於て幼兒の健康に留意して主として、運動遊戲に依つて、その保育を行ふといふ場合に、それは單の遊戲場たり又文字通りの運動場たるに止まるべきものであらうか、そこに内地の所謂幼稚園と同様なる意味の幼兒教育が行はれてなくてよいものであらうか、それを行ふとすれば果たして如何なる形式に、又如何なる程度に依るものであらうかといふことであります。これは彼地の幼兒運動場が單に幼兒の遊び場を提供するといふ簡單なる意義から次第に教育の内面的意義に進んで來たものでありまして實際に幼兒の生活に接して居る保母諸君としては當然こゝまで進んで來べき問

題であらうと思ひます。初め幼兒運動場の設置をする場合に先づ目に見える身體の健康といふことから出發したことは、あの土地の實狀としてさもあることであります。が實際に幼兒の生活に接して行く保母としてはたゞ身體の爲めといふことだけを幼兒生活から區別して考へることは出來ずまい、尤も初めの内はこの問題が夫程深く意識せられず、先年久留島武彦君が渡滿せられた際、或る保母の方が、私共は幼兒をたゞ遊ばせて居るだけでありますと言はれたのに對して、たゞとは何ぞやといふ警告を與へられたといふことを同君から聞いたのであります。その後、彼地の保母者君は大分考へられて來たのであらうと思ひます。即ち幼兒運動場が幼兒教育場としての意識を加へて來たといふことが出來るのであります。而してこれは確かに喜ぶべき傾向と言はなければなりません。ところが近代教育の問題は純教育上の理想の方面と社會的實際の方面と必ずしも嚴密に並行さ

せ得ないことがあるのでありまして、幼児教育にしても、一人々の幼児に最も理想的の教育を施さうといふこと、社會の爲めにその普及を圖らうといふことは理論上には必ずしも矛盾することではありませんが實際上には往々にして兩立しがたいことがあつて、茲に教育者の少からざる煩悶を生ずるのが普通でありますが滿洲の幼児教育も目下丁度その煩悶に入つて居るやうに見えるのであります。會社の教育當事者の苦心も實にこの點にあるやうに察せられました。斯う申すと現在の幼児運動場が教育的にさも不完全であるかのやうに聞えるかも知れませんが決してさうではありません。建物は小學校の一部或は俱樂部の建物なぞ

を利用して居つて、専門的に幼児教育場として設計され、獨立に建築されて居るものは殆んど無いのでありますが、しかしその廣さに於ても、殊に遊園の廣さ等に於てもこれを東京市立幼稚園の平均状態に比して、決して劣らない、或るものはずつと優つて居るのであります、尤も東京市の幼稚園の設備が甚だ結構でないものが多いのでありますから、それを標準にしたところで、何の役にも立たないやうなわけではありませんが會社が幼児運動場の爲めに、幼児一人に就き年十二圓の人頭割(月謝六圓總額計十八圓)の支出をして居ることは必ずしも少い額ではないのであります。(以下次號)

幼稚園出身の成績

城東幼稚園長 山邊知之

確か本年の二月であつたと思ふ。青山師範學校

の附屬小學校で發した家庭通信に、幼稚園出身兒